

題目：認知傾向と時間割引との関係の研究

氏名：山田愛

指導教員：高橋泰城

時間割引とは、現在の報酬の価値よりも、未来の報酬の価値を割り引く傾向のことをいう。Stanovich & West (2000)によると、人の認知プロセスには2つのタイプ(システム1：直感的、システム2：熟慮的)がある。Frederick (2005)は、CRT(Cognitive Reflection Test : 3つの質問項目で認知プロセスのうちのどちらのタイプがはたらいっているかを判定する課題)の得点が高い人々は低い人々よりも、短期間では時間割引率が低く、長期間では逆に高くなると予測した。本研究の目的は、この予測を検証することである。本研究では、大西(2015)の研究で得られたデータのうち、時間割引課題と CRT のデータを用いた(126人、平均年齢23.1、男性84人、女性42人)。時間割引課題データにq指数関数(kが大きいと近い将来の割引率が高く、qが1に近いと合理性が高い)によるフィッティングを行うことで、CRTの得点と時間割引率との関係の時間変化を調べた。CRTは、全問正解者を CRThigh グループ(57人)、全問不正解者を CRTlow グループ(18人)とグループ分けした。q指数関数のフィッティングの結果、CRThigh グループの代表値は $k=0.002963$ 、 $q=-3.16723$ 、CRTlow グループの代表値は $k=0.02102$ 、 $q=-5.98903$ であり、CRTlow グループの方が直近の時間割引率が高く、非合理性が高かった。これらの結果から、CRTが低いグループは「近い将来では割引率が高く、遠い将来では割引率が低くなる」という時間非整合性が CRTが高いグループよりも強いことがわかった。このことは、CRTの得点が高い人ほど、時間割引における合理性が高いということをしめす。